

# 愛知県感染症情報

## 平成 14 年第 1 週（1 月第 1 週）

（コメント）

例年この時期は、年末年始の休みの影響で感染症の報告数が少なくなっていますが、インフルエンザ、水痘の報告数が目立ちますので注意してください。

インフルエンザの流行予測については、愛知県衛生研究所のホームページ（<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/>）をご覧ください。

（定点の先生方からのコメント）

- 尾張東部地区
  - ・ A 型インフルエンザ 4 歳男  
マイコプラズマ肺炎 2 名（3 歳女、5 歳男）  
（瀬戸市 津田こどもクリニック）
  - ・ 水痘散発。インフルエンザなし。とても暇な仕事始めでした。  
（尾張旭市 佐伯小児科医院）
  - ・ インフルエンザ散発  
（南知多町 医療法人大岩医院）
  - ・ 溶連菌による急性化膿性扁桃炎が 4 歳男、女各 1 名ずつありました。EB ウイルスによるとみられます。急性化膿性扁桃炎も 4 歳男、女各 1 名ずつあり。両者とも 39 ~ 40.0 の高熱が 3 日 ~ 4 日間ありました。  
（春日井市 かちがわ北病院）
  - ・ 胃腸かぜが増えてきました。水痘あいかかわらず多いです。インフルエンザ A 型 1 例（迅速診断）。  
（春日井市 朝宮こどもクリニック）
  - ・ 水痘多し。ウイルス性気管支肺炎流行している。  
（小牧市 小牧市民病院）
- 西三河地区
  - ・ R S ウィルス感染症 3 ヶ月女 2 名  
（豊田市 星ヶ丘田中こどもクリニック）
  - ・ ロタウイルス（+）7 ヶ月  
（岡崎市 花田こどもクリニック）

- ・ 便中口ウイルス陽性 1歳  
(幸田町 とみた小児科)
- ・ インフルエンザ A型、B型(13歳男、13歳女、17歳女、33歳女)インフル A・Bクイック\* A(+ ) B(+ )  
(岡崎市 永坂内科医院)  
インフル A・Bクイック\* : A型及びB型インフルエンザウイルスを検出する迅速診断キットの一種。
- ・ サルモネラ O4 9歳女  
(碧南市 永井小児クリニック)
- ・ 嘔吐、下痢が目立ちました。  
(西尾市 やすい小児科)
- 東三河地区
  - ・ 休み前にムンプスや水痘に感染した子が多いようです。(地域はいろいろです。)  
(豊橋市 富田小児科)
  - ・ 2ヶ月女児家族全員発熱インフル A・Bクイック A(+ )  
1歳女児インフルエンザワクチン 2回接種済み インフル A・Bクイック B(+ )  
(豊橋市 こどもの国大谷小児科)

(1~3類感染症の発生状況)

報告はありません。

(全数把握の4類感染症の発生状況)

報告はありません。

第51週(12月17日~12月23日)の4類感染症の全国状況

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘は例年年末に患者報告数が多くなり、平成13年も同様の傾向がみられる。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は例年の同時期よりやや多くなっており、とくに山形県で定点当たり報告数6.3と多い。感染性胃腸炎の定点当たり報告数も過去5年間の同時期にくらべやや多くなっており、宮崎県(44.1)、大分県(28.6)、石川県(25.5)、埼玉県(23.4)、三重県(23.3)、富山県(22.9)など九州地方、東海・北陸地方、関東地方に流行が拡大している。水痘の定点当たり報告数が多くなっているのは福井県(6.0)、新潟県(5.9)、山形県(4.7)、宮崎県(4.3)、石川県(4.1)などである。伝染性紅斑は非流行

期であるが、過去5年間の同時期と比較するとやや定点当たり報告数が増えている。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は、第19週よりここ10年間で最大の定点当たり報告数が持続しており、定点当たり報告数が増えているのは、石川県（9.9）、長野県（6.8）、沖縄県（6.2）、富山県（5.6）、愛媛県（5.3）、山形県（4.9）などである。流行性角結膜炎は宮崎県で定点当たり報告数5.3と増えている。インフルエンザは、流行開始の指標と考えられる定点当たり報告数1.0を越えておらず、大分県、群馬県、宮崎県でそれぞれ定点当たり報告数2.7、2.1、1.3となっている。

（Infectious Diseases Weekly Reportより抜粋

厚生労働省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供）



